

遡 迓

佐渡市教育長 渡 邊 剛 忠

教職勤務最後の学校で、その学校の同窓会の役員をしていた高校時代の同級生に出会うことができた。彼はよく「佐渡は本当にいいところだ。食べ物も美味しいし、人情も厚い。四季折々の景色も瑞々しくきれいで、心も和む。島民はもっとそのことを自覚したいね。」と語り、いつも佐渡を誇りに思い、自慢をしていた。

歴史と文化の島、自然の豊かな島、環境にやさしい島・・・の大切さを説き、佐渡が生んだ歴史上の人物を取り上げ、熱く語りながらそれぞれの時代の教育の大切さを説いていた。多くの皆さんから慕われていた彼には「他人の話をよく聞き、一度受け止めてから、自分の考えをまとめて、わかりやすく説明する。」との哲学があった。同級会などで議論が深まり、方向が脇道にそれると、彼がよくまとめていた。

改訂された学習指導要領の大きな柱の一つに「言語活動」の重要性が盛られた。文法がわかり、文章を構成する力ももちろん大切であるが、加えて、しかるべき場面で、自分の考えをまとめ、相手に理解をしてもらえるような能力を身につけることが求められている。

国際化時代、どこの国の人々とも臆することなく話をすることができたり、コミュニケーションがとれる能力・人材の育成が求められている。

早春を思わせる夕焼けの真野湾の冬空に、一際明るく輝く星を今年も見つけた。11年前、彼が急逝したその日、勤務を終えての帰路見かけた星であった。高校時代、部活動に励み、学業と両立させ、生徒会で活躍をしていた友人との在りし日を思い出していた。

聴く・感謝・説明・報告

管理主事 児 玉 勝 巳

「モンスターペアレントとかクレーマーなどという言葉も、教員は使ってはいけない。」と話す教育評論家がいる。いかなる要望や苦情でも、考えようでは貴重な情報であるというのである。

とはいえ、対応のため、相当のエネルギーを使う例があることも確かである。対応は担当だけでなく、管理職を含む複数で対応する必要がある。問題を大きくしないために、時系列に次の4つの対応が望まれる。

聴く

まず、相手の話を心から真剣に聞くことである。時間を惜しまず、相手をきちんと受け止め、うなずきながら耳を傾ける。不満の源が訴えていることと別な所にあることもある。

感謝する

学校が把握していなかったことを、学校に直接知らせてくださったことに感謝する。謙虚な姿勢が大切である。

説明する

学校が今後どのように対応するかを説明する。どの時期までに、どのような問題を解決するために、どのような手を打つかを、具体的に説明できると良い。

最初に事実確認が必要な場合でも、その確認方法や期間も知らせる。

報告する

学校で対応した結果を忘れずに報告する。些細なことでも、報告を怠ったばかりに大きなトラブルに発展した例がある。1回の対応で解決する場合もあるが、2回、3回と対応しなければならない場合も、基本的には「聴く・感謝・説明・報告」の対応を繰り返すのである。もちろん、あまりに理不尽な要求には学校として毅然と対応しなければならない。

佐渡総合教育センター

「授業の達人」研修講座発表会

指導主事 銅 郁 夫



3月3日（火）に行われた、「授業の達人」養成研修講座受講者の発表会には、約60名の参加者がありました。

「授業の達人」養成研修講座は、市内小・中学校の先生方の自己研鑽を支援し、児童生徒や保護者、地域に信頼され尊敬される教師を育成することを目的に実施されている事業です。受講者は自分のニーズに合わせて研究テーマを設定し、研究の進め方も自身で計画して取り組むものです。年間3回以上の授業実践を通して行う実践的な研究であることが条件です。また、受講者一人一人にはそれぞれ指導者がつき、1対1の指導が行われます。

6名の受講理由を簡単に紹介すると、「授業を見ていただき授業力の向上を図りたい」「深い教材研究を通して専門性を高めたい」「たくさん授業を公開し、たくさん発表することで授業力を高めたい」「授業力を高め算数の面白さを体得させたい」「子どもに生きる力を付けられる教師になりたい」「指導力を付け、子どもの成長につなげたい」と、自己改革、指導法改善への意欲が感じられます。

当日の発表会は、「トキのむら元気館」のホールを6つに分け、ポスターセッション形式でパワーポイントを使い、同時発表を行いました。それぞれ個人研修でなくては取り組めないような個性的な内容でした。参加者からのアンケートでは、授業改善に新しい観点から挑戦している6名の発表者へのエールの言葉が多くありました。6名の発表者へ皆さん1年間大変お疲れ様でした。

来年度、一人でも多くの先生方が「授業の達人」研修講座に挑戦してほしいと願っています。



学校預かり金

管理主事 児玉勝巳

「学校徴収金」と呼ばれているものを「学校預かり金」と名称変更する学校が増えています。

学校では口座振替を利用し、現金を集めることが少なくなりました。でも、このことが名称変更の理由ではありません。

教材費、給食費、PTA会費、修学旅行積立金・・・等は、学校で集金しますが、いずれも学校が保護者から一時預かり、会計処理しているものです。ですから「学校預かり金」と呼ぶようになったのでしょうか。

この名称変更には、もう一つ理由があるような気がします。それは、学校での不適切な会計処理や横領等、お金に関連する不祥事の多発です。

学校で預かるお金の会計処理には、「公正性」と「透明性」が求められているのです。

カウンセラー等の活用について

下越教育事務所指導主事 本間健人

県や市では生徒指導上の最重要課題であるいじめ、非行等の問題の解消及び不登校への適切な対応を目指し、相談機能の充実を図るために次の事業を行っています。児童生徒への対応のために有効に活用ください。

(1) 県事業

カウンセラー学校派遣事業（小学校）

学校の要請に応じて、年間5回を上限に対応の難しいケースへの指導・助言を行います。20年度は20校に63回派遣。年度途中の要請は予備の中での対応です。

スクールカウンセラー活用事業（中学校）

生徒・保護者へのカウンセリングや教職員及び保護者に対する助言・援助を行います。拠点校は年間24日、対象校は10日程度派遣。中学校区内の小中学校との合同研修も可能です。

(2) 市事業

適応指導教室指導員、心の教室相談員、不登校児童生徒訪問指導員、いじめ・不登校電話相談員が配置されています。

